

# 学習目標低群は一対一でほめよう

○宮本正一

(岐阜大学教育学部)

## 目的

学校教育において子どもをほめることが重要である。本研究は「ほめられることの効果」を子どもの達成目標の違い、ほめられる場面の違いを検討する中で、場面想定法により分析した。

## 方 法

### 調査協力者

岐阜市内のA小学校6年生児童120名(1クラス40名3クラス、男子60名 女子60名)

実施時期 2012年9月中旬

### 調査内容

1 達成目標の違い 青木・中島(2011)が、速水・伊藤・吉崎(1989)の達成目標尺度を参考に小学生向けに作成した目標指向性を測る19項目を用いた。「あてはまらない(1点)」「あまりあてはまらない(2点)」「どちらでもない(3点)」「あてはまる(4点)」「とてもあてはまる(5点)」の5段階評定とした。

2 学校生活におけるほめられる場面での質問(場面1～場面4)

場面1 そうじの時間

場面2 係の仕事

場面3 授業中の挙手・発表

場面4 自主勉強

・場面1～4のそれぞれにおいて以下の内容を調査した。

①先生に直接ほめられた時(対面賞賛)の気持ちにあてはまるものを選択させた。

②帰りの会などでみんなの前でほめられた時(集団賞賛)の気持ちにあてはまるものを選択させた。

①②について、「うれしくない(1点)」「あまりうれしくない(2点)」「どちらでもない(3点)」「うれしい(4点)」「とてもうれしい(5点)」の5段階評定とした。

③上の①②のうち、どちらの場面の方がよりうれしいかを選択させた。

## 結果と考察

### 1. 指標の得点化

達成目標傾向を測る尺度の得点化 2つの下位尺度である学習目標尺度、遂行目標尺度ごとに、項目平均をそれぞれ、学習目標平均、遂行目標平均とした。

ほめられた時の気持ち得点化 場面1～場面4毎に平均を求めた。

### 2. 達成目標傾向の強弱による被験者の分類

学習目標得点と遂行目標得点の全体平均を基準に4群に分類した。(表1)。学習目標と遂行目標は強い正の相関がみられた( $r=.842$ ,  $p<.01$ )。

### 3. ほめられた時の感情反応

ほめられた時の4つの場面設定の中で、場面1と場面2をまとめたものを「学習に関係しない場面」、場面3と場面4をまとめたものを「学習に関係する場面」、場面1～場面4をまとめたものを「すべての場面」とした。ほめられる場面の違いによって、ほめられた時の気持ち得点の平均を図1に示した。対面賞賛と集団賞賛の相関を

調べたところ、強い正の相関がみられた( $r=.938$ ,  $p<.01$ )。

表1 2つの達成目標傾向の尺度得点の平均値分割

4群	学習目標	遂行目標	人数	
			低	高
1	低	低	38	
2	低	高	22	
3	高	低	19	
4	高	高	41	
			(120)	

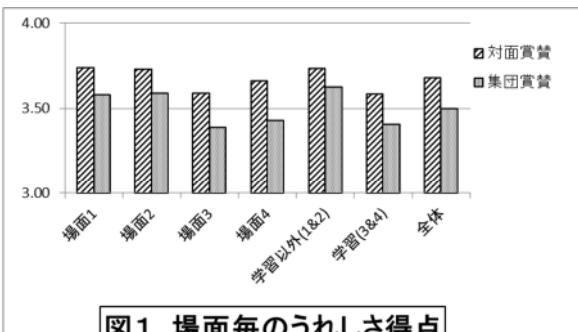


図1 場面毎のうれしさ得点

### 4. 達成目標傾向とほめられる状況との関連

ほめられた時の気持ち得点について、表1の達成目標4群毎に、対面賞賛場面と集団賞賛場面での平均を図2に示した。さらに、学習目標(A要因:被験者間要因)の強弱と遂行目標(B要因:被験者間要因)の強弱とほめられる状況(C要因:被験者内要因, 2水準:一対一・集団の前)の3要因混合計画の分散分析を行った。その結果、交互作用は有意ではなかった( $F(1, 116) = 0.83$ , n.s.)。学習目標の主効果が有意であり( $F(1, 116) = 13.38$ ,  $p<.01$ )、学習目標高群の方が低群よりも嬉しい気持ちが強かった。遂行目標の主効果が有意であり( $F(1, 116) = 7.61$ ,  $p<.01$ )、遂行目標高群の方が低群よりも嬉しい気持ちが強かった。ほめられる状況の主効果が有意であり( $F(1, 116) = 10.11$ ,  $p<.01$ )、教師と一対一の時にほめられる方が集団の前でほめられるよりも嬉しい気持ちが強かった。

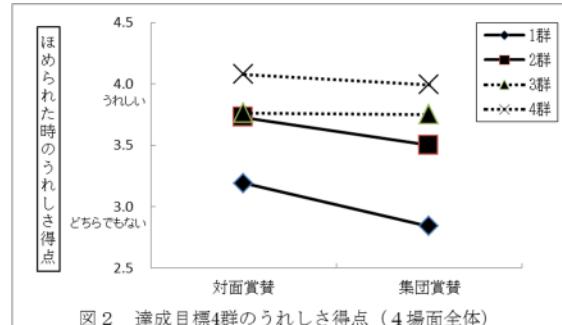


図2 達成目標4群のうれしさ得点(4場面全体)

学習目標低群は教師と一対一の時にほめられる方が集団の前でほめられるよりも嬉しい気持ちが強いことが分かったことは教育的に意義のある結果である。(本研究は平成24年度岐阜大学教育学部卒業生立木英香との共同研究である。)

Miyamoto, Masakazu

# 学習目標低群は一 対一でほめよう

○宮本正一  
(岐阜大学教育学部)

## 目的

学校教育において子どもをほめることは重要である。本研究は「ほめられることの効果」を子どもの達成目標の違い、ほめられる場面の違いを検討する中で、場面想定法により分析した。

# 方 法

## 1. 調査協力者

1. 岐阜市内のA小学校6年生児童120名
2. (1クラス40名 3クラス, 男子60名 女子60名)

## 2. 実施時期 2012年9月中旬

## 3. 調査内容

1. 達成目標志向性を測る19項目
2. ほめられた時のうれしさ得点

2013/8/17

3

# 方 法

## 何をほめられたか

- 質問1 あなたはそうじの時間にすみずみまで一生けん命**そうじ**をがんばっていました。
- 質問2 あなたは**係の仕事を**自分からすすんで取り組んでいました。
- 質問3 あなたは授業中にたくさん**手をあげて発表すること**をがんばりました。
- 質問4 あなたは**自主勉強**をがんばって取り組んでいます。

2013/8/17

4

## 方 法 ほめられた場面

- ① 授業が終わってから先生から直接、「〇〇さん、たくさん挙手して、自分の考えを発表していてすばらしかったよ。」と、ほめてもらった時。
- ② 帰りの会などで、みんなの前で、「〇〇さんがたくさん挙手をして自分の考えを発表していてすばらしかったよ。」と、ほめてもらった時。

2013/8/17

5

## うれしさ得点

- 「うれしくない (1点)」
- 「あまりうれしくない(2点)」
- 「どちらでもない (3点)」
- 「うれしい (4点)」
- 「とてもうれしい (5点)」

2013/8/17

6

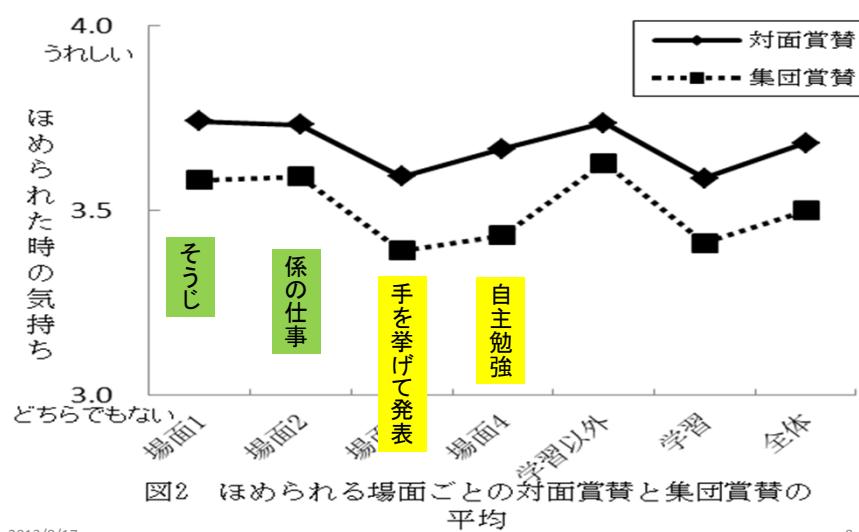
## 結果と考察

表3 達成目標傾向の4群の組み合わせ及び人数

4群	学習目標	遂行目標	人数
1	低	低	38
2	低	高	22
3	高	低	19
4	高	高	41
			(120)

学習目標得点と遂行目標得点との相関は  $r=.842$   
2013/8/17

## ほめられた時のうれしさ得点



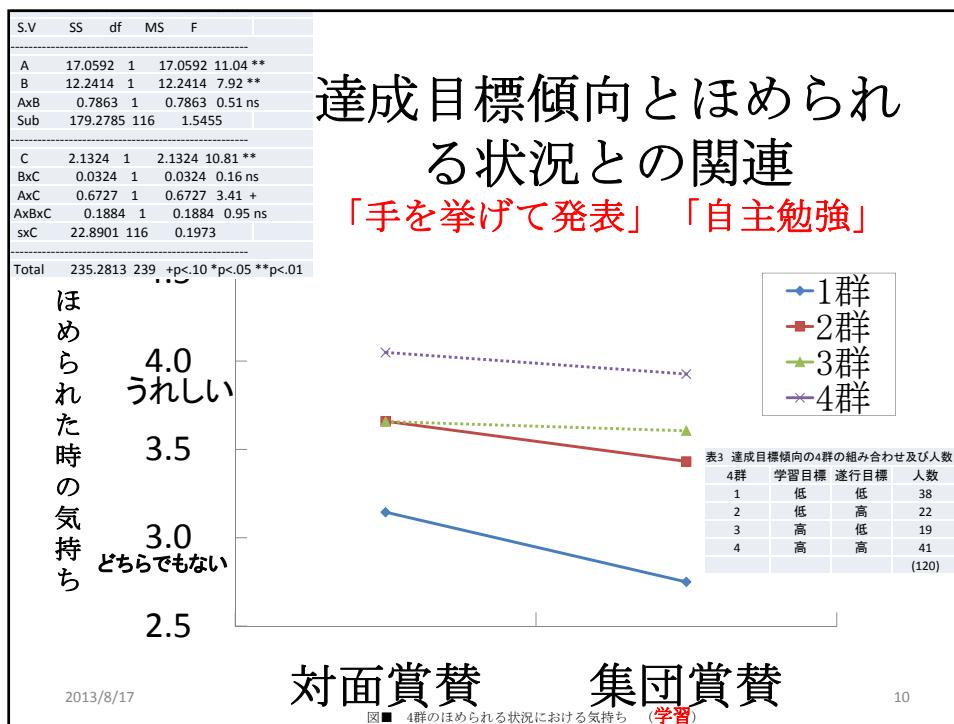
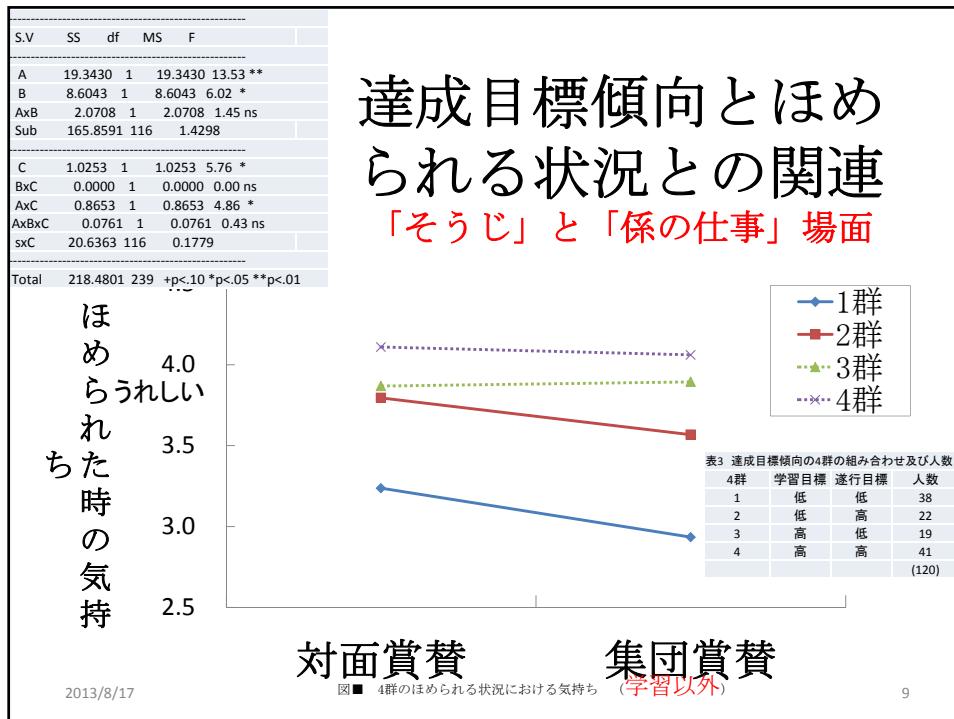
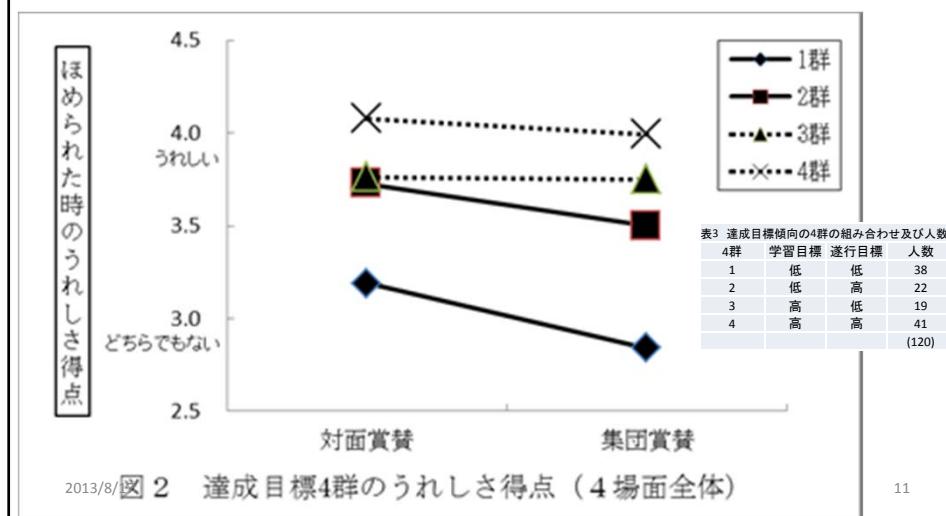


表6 3要因混合計画の分散分析の結果(すべての場面)					
要 因	平方和	自由度	平均	P値	
学習目標 (A)	18.18	1	18.18	13.38 **	
逆行目標 (B)	10.34	1	10.34	7.61 **	
A×B	1.35	1	1.35	1.00 n.s.	
個体差 (S)	157.61	116	1.36		
状況 (C)	1.53	1	1.53	10.11 **	
B×C	0.01	1	0.01	0.05 n.s.	
A×C	0.77	1	0.77	5.07 *	
A×B×C	0.13	1	0.13	0.83 n.s.	
S×C	17.53	116	0.15		
全體	207.45	239		+p<.10 *p<.05 **p<.01	

## 達成目標傾向とほめられる状況との関連



学習目標低群は教師と一对一の時にほめられる方が集団の前でほめられるよりも嬉しい気持ちが強いことが分かったことは教育的に意義のある結果である。(本研究は平成24年度岐阜大学教育学部卒業生立木英香との共同研究である。)